



大鰐町 人口ビジョン 【改訂版】

令和2年3月

大鰐町

目 次

I. 人口ビジョンについて.....	1
1. 策定の趣旨.....	1
2. 大鰐町人口ビジョンの位置づけ.....	1
3. 対象期間.....	1
4. 国の長期ビジョンの改定について.....	1
5. 国の人口推移と人口動向.....	2
II. 大鰐町の人口動向の現状と見通し.....	3
1. 現状分析.....	3
(1) 人口動向分析についての基本的考え方.....	3
(2) 性別・年齢人口動向.....	4
(3) 自然動態・社会動態の状況.....	7
(4) 出生・死亡の状況.....	8
(5) 移動の状況.....	11
(6) その他の分析.....	13
2. 大鰐町の将来推計の検証.....	14
(1) 2020 年の戦略人口の達成状況の検証.....	14
(2) 新たな社人研推計を踏まえた戦略人口の検証.....	15
III. 人口の将来展望.....	16
1. 人口の将来展望の検討・設定の考え方.....	16
2. 趨勢人口の推計結果.....	17
3. 戦略人口の推計結果.....	18
4. 戦略人口の達成に向けて.....	19
【参考①】2060 年の戦略人口と趨勢人口の比較.....	20
【参考②】2025 年の戦略人口と趨勢人口の乖離の詳細.....	21
IV. めざすべき将来の方向.....	22
1. 「子どもは宝 子育て充実の大鰐町」へ.....	22
2. 「いつまでも住み続けたい大鰐町」へ.....	22

I. 人口ビジョンについて

1. 策定の趣旨

我が国では、2008年の1億2,808万人をピークに人口減少局面に入っており、国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）は2012年に、今後も年少人口の減少と老年人口の増加を伴いながら、2050年に9,700万人程度、2100年には5,000万人未満まで減少するという推計を公表しました。

こうした背景に対応するため、国では2014年に日本の人口の現状と将来の姿を示し、今後めざすべき将来の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（長期ビジョン）」及びこれを実現するため、今後5か年の目標や施策、基本的な方向を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略（総合戦略）」を策定しました。

国は、この総合戦略に基づく戦略的な取組を進めることで、若者の就業率の向上や訪日外国人旅行者の増加など、特に「しごと」に関する成果を上げてきましたが、人口の東京一極集中の是正や合計特殊出生率の向上については、十分な成果がみられない状況が続いています。

こうした状況や、社人研が2017年に公表した新たな人口推計結果を踏まえ、国は2019年に長期ビジョンを改定し、我が国の将来の人口展望を示したところです。

本町においても、2015年度に、今後めざすべき将来の方向と人口の将来展望を示す「大鰐町人口ビジョン」を策定していますが、社会情勢の変化、本町の人口動向やこれを取り巻く課題を踏まえ、「大鰐町人口ビジョン」を改訂することとします。

2. 大鰐町人口ビジョンの位置づけ

人口ビジョン(改訂版)は、2015年度以降の人口の現状や人口の推計等を分析することで、町の人口動向の特性と課題を把握し、目標とする将来人口と、将来人口に基づく将来の展望を改めて検討・提示するものです。

また、同時に策定する「第2期 まち・ひと・しごと創生大鰐町総合戦略」の目標設定や、必要な施策・事業を検討する上で、重要な基礎資料となります。

3. 対象期間

人口ビジョン（改訂版）の対象期間は、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の期間と同様（2060年まで）としますが、より長期的な視点で本町の将来の展望を検討するために、将来人口推計においては必要に応じて、より長期的な期間の推計を行います。

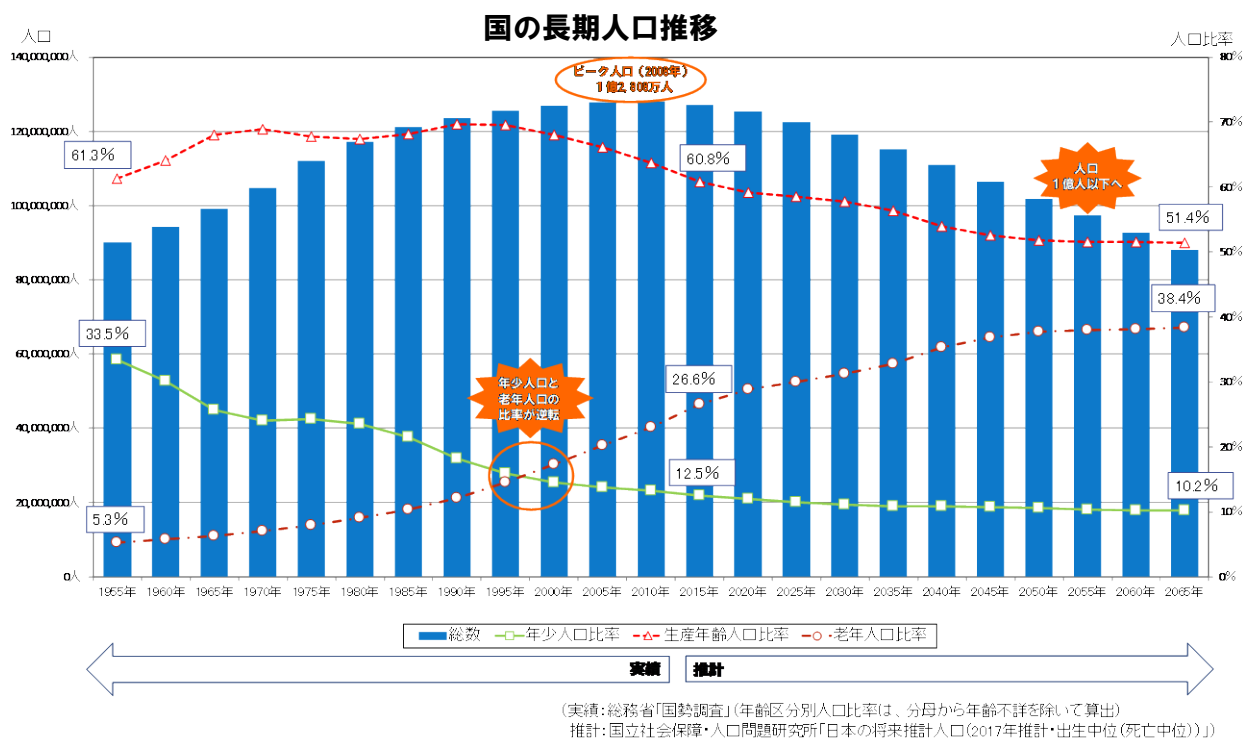
4. 国の長期ビジョンの改定について

国の長期ビジョンにおいては、改定前と同様に2040年に合計特殊出生率が人口置換水準と同程度の値である2.07まで回復することを前提に、人口の長期的展望として、2060年に1億人程度を確保することを示しています。

また、地域経済社会の展望として、「活力ある地域社会」の実現と「東京圏への一極集中」の是正をめざすことを示しています。

5. 国の人口推移と人口動向

我が国の人口は、2008 年をピークに減少に転じ、2065 年には 8,808 万人程度にまで減少すると推計されています。これは高度経済成長期の 1955 年の人口と概ね同程度ですが、年齢構成を比較すると、年少人口（0～14 歳）と生産年齢人口（15～64 歳）の割合が低く、老年人口（65 歳以上）の割合が高くなっており、年少人口と老年人口の割合がほぼ逆転しています。



国の人口動向

人口の減少

2018（平成 30）年の総人口「1 億 2,644 万 3 千人」

※ピーク人口（2008（平成 20）年）から 150 万人程度減少

全国的な低出生率の継続

2018（平成 30）年の合計特殊出生率「1.42」、年間出生数 91 万 8 千人

※2014（平成 26）年の合計特殊出生率「1.42」から改善がみられない

晩婚化の進行

1955（昭和 30）年の平均初婚年齢「夫 26.6 歳、妻 23.8 歳」

→2017（平成 29）年の平均初婚年齢「夫 31.1 歳、妻 29.4 歳」

人口の東京一極集中の継続

2018（平成 30）年の東京圏の転入超過「13 万 6 千人」、若年層（15～29 歳）「12 万 6 千人」

※23 年連続の東京圏転入超過

高齢化の進行

2018（平成 30）年の 65 歳以上人口「3,557 万 8 千人」

（人口推計(2018(平成 30)年 10 月 1日)結果の概要、人口動態統計、人口移動

Ⅱ. 大鰐町の人口動向の現状と見通し

1. 現状分析

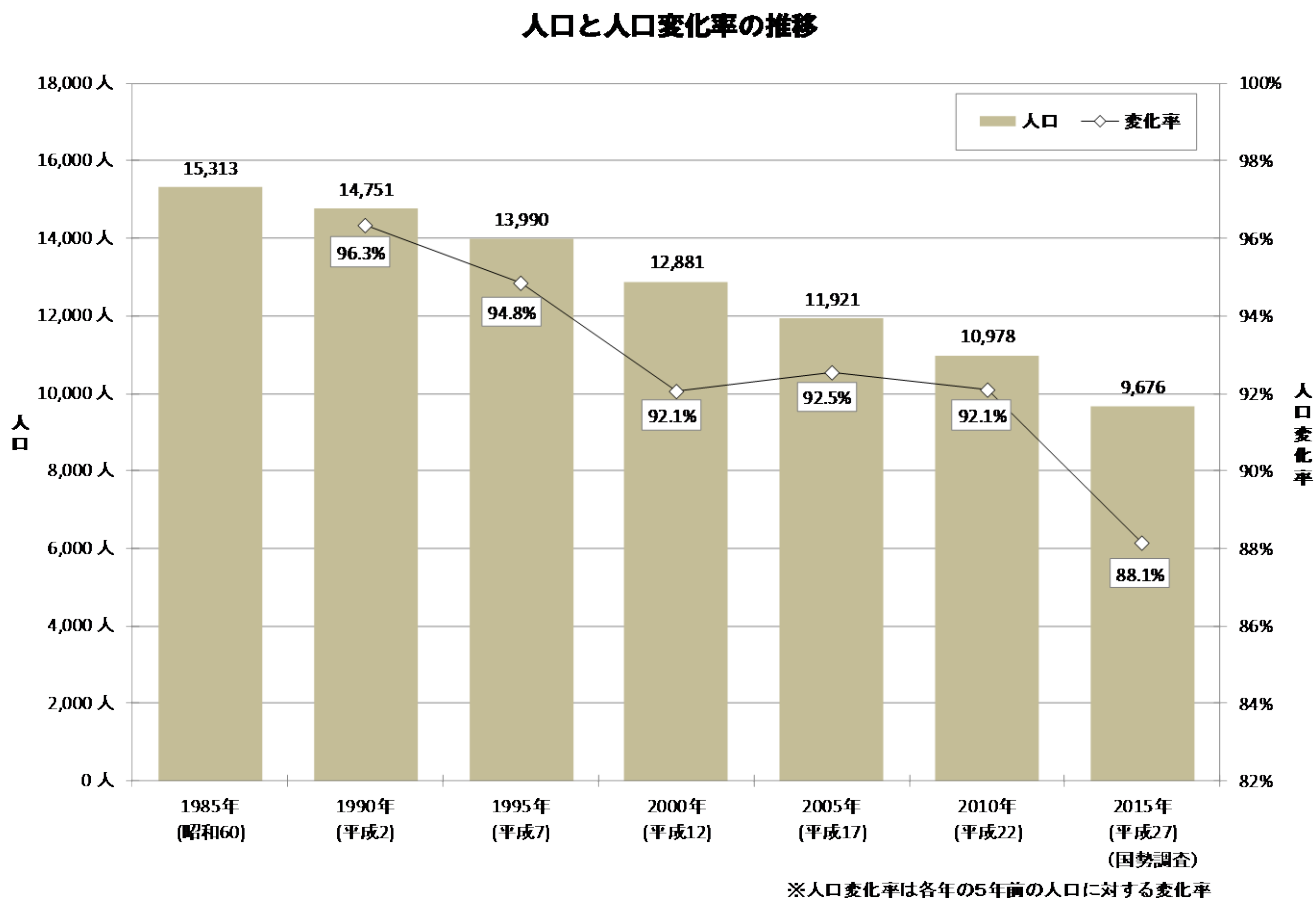
(1) 人口動向分析についての基本的考え方

過去から現在に至る人口の推移を把握し、その背景を分析することにより、講ずべき施策の検討材料を得ることを目的として、時系列による人口動向や年齢階級別の人口移動分析を行います。

〔総人口の推移〕

大鰐町の総人口は減少傾向で推移しており、1985（昭和 60）年の 15,313 人から、2015（平成 27）年には、9,676 人と、30 年間で約 5,600 人減少しています。

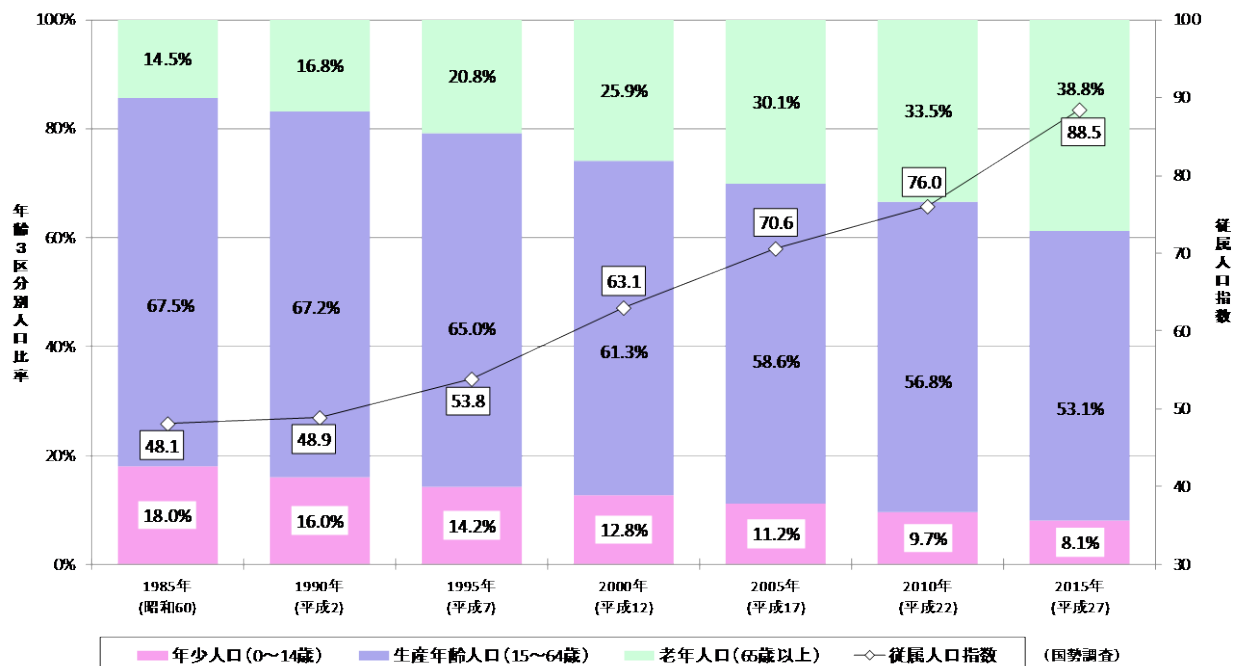
人口変化率は、1990（平成 2 年）の 96.3%から 2015（平成 27）年には 88.1%となっており、人口減少が加速していることがわかります。



(2) 性別・年齢人口動向

① 年齢3区分別人口の推移

年齢3区分別の人口構造の推移についてみると、老年人口が1985（昭和60）年の14.5%から2015（平成27）年には38.8%と30年間で24.3ポイント増加している一方で、年少人口は18.0%から8.1%と9.9ポイント減少しており、少子高齢化が進行していることがわかります。従属人口指数は、1985（昭和60）年の48.1から2015（平成27）年には88.5まで増加しています。 **年齢3区分別人口構造と従属人口指数の推移**



従属人口指数とは、生産年齢人口（15～64歳）に対する年少人口（0～14歳）、老年人口（65歳以上）の合計の比率で、働き手である生産年齢人口100人が年少人口と老年人口を何人支えているかを示すものです。

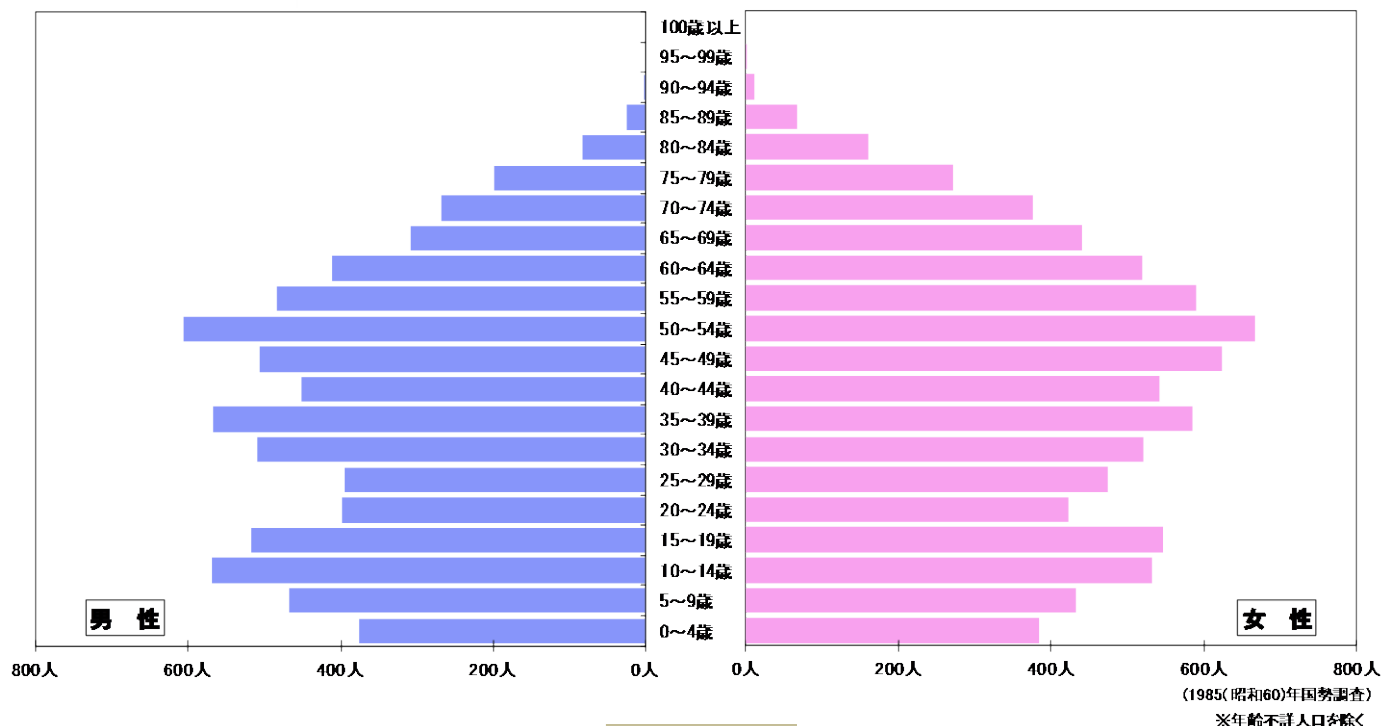
			(人)						
			1985年 (昭和60)	1990年 (平成2)	1995年 (平成7)	2000年 (平成12)	2005年 (平成17)	2010年 (平成22)	2015年 (平成27)
人口	年少人口	0～4歳	761	656	572	434	334	273	191
		5～9歳	900	771	661	569	443	345	244
		10～14歳	1,101	937	758	645	563	444	351
		計	2,762	2,364	1,991	1,648	1,340	1,062	786
	生産年齢人口	15～19歳	1,065	980	855	663	563	495	351
		20～24歳	821	721	670	567	449	340	309
		25～29歳	869	814	683	579	526	414	300
		30～34歳	1,030	861	739	620	565	514	378
		35～39歳	1,153	1,041	828	725	582	544	477
		40～44歳	993	1,158	1,019	790	720	580	497
		45～49歳	1,129	978	1,120	965	757	686	557
		50～64歳	3,278	3,354	3,180	2,988	2,826	2,663	2,264
		計	10,338	9,907	9,094	7,897	6,988	6,236	5,133
	老年人口	65～74歳	1,392	1,513	1,783	2,012	2,013	1,758	1,745
		75歳以上	821	967	1,122	1,320	1,580	1,922	2,010
		計	2,213	2,480	2,905	3,332	3,593	3,680	3,755
	年齢不詳		0	0	0	4	0	0	2
	総人口		15,313	14,751	13,990	12,881	11,921	10,978	9,676
構成比	年少人口	0～14歳	18.0%	16.0%	14.2%	12.8%	11.2%	9.7%	8.1%
	生産年齢人口	15～64歳	67.5%	67.2%	65.0%	61.3%	58.6%	56.8%	53.1%
	老年人口	65歳以上	14.5%	16.8%	20.8%	25.9%	30.1%	33.5%	38.8%

(国勢調査)

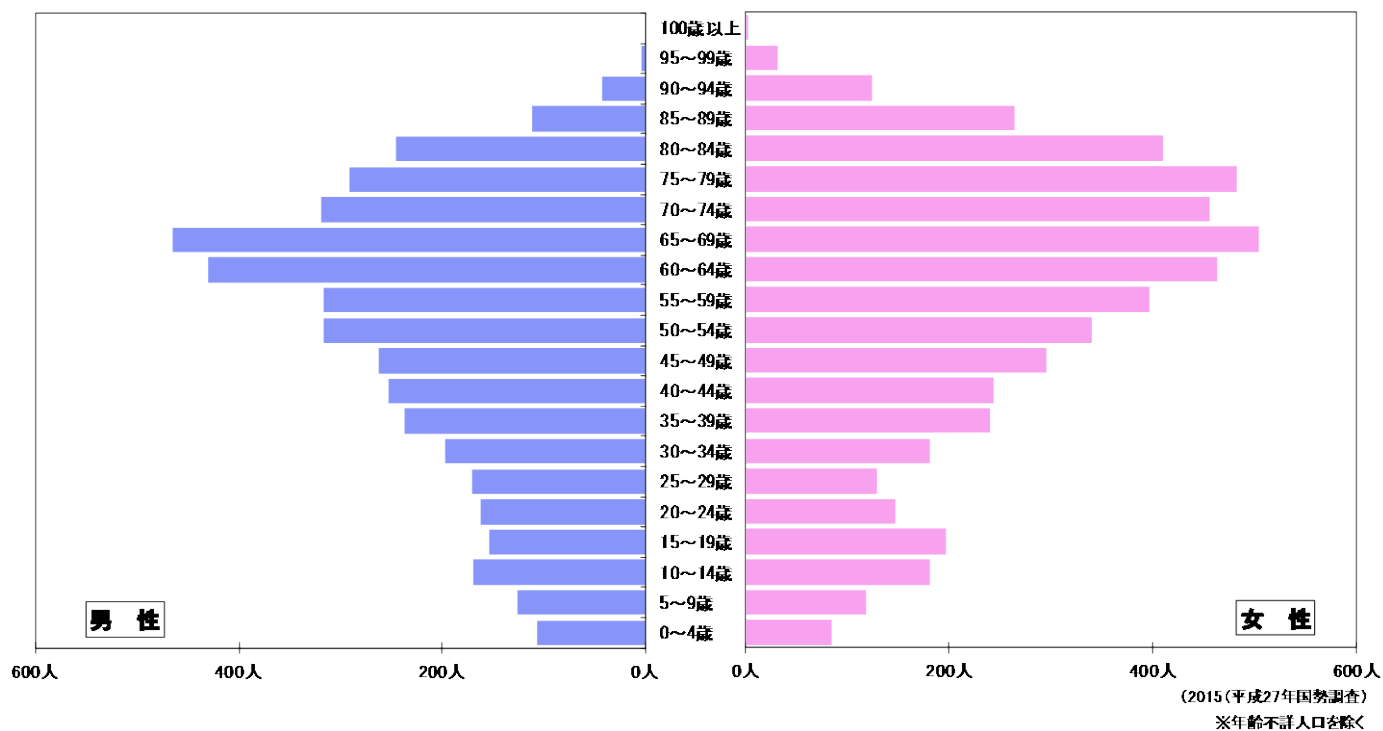
② 性別の人口の変化

1985（昭和 60）年と 2015（平成 27）年の大鰐町の年齢 5 歳階級別の人口構造を比較すると、1985（昭和 60）年では若い世代を中心に膨らみをもった形になっているのに対し、2015（平成 27）年では年少人口が大幅に減少し、65 歳以上の老年人口が大きく増加した形に変化しています。

大鰐町の 5 歳階級別人口構造（1985⇒2015）



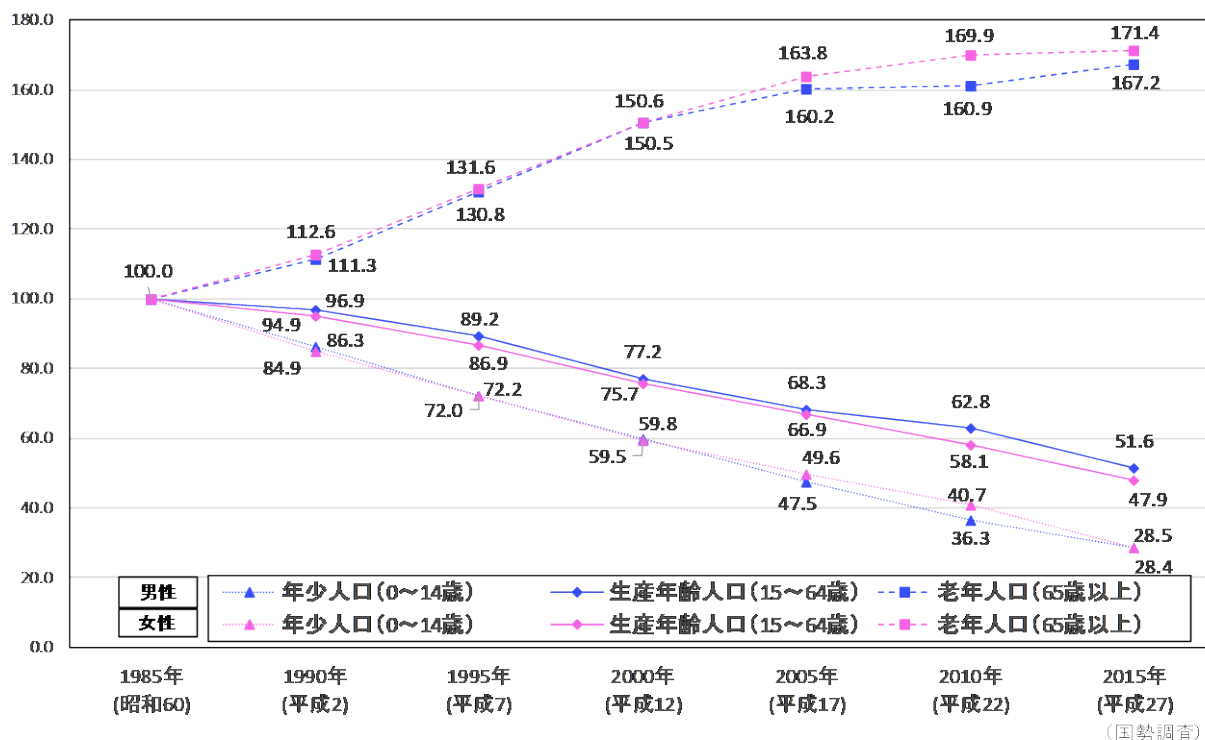
年少人口は減少、老年人口が増加



③ 人口変化指数

1985（昭和 60）年の人口を 100 とした場合の性別・年齢 3 区分別の変化指数の推移をみると、老年人口は年々上昇傾向で、女性が 171.4、男性が 167.2 となっています。生産年齢人口は年々減少傾向で 2015（平成 27）年には男性が 51.6、女性は 47.9 と女性の減少が大きくなっています。年少人口は 2015（平成 27）年には男女とも 28.5 程度と大きく減少しています。

男女別人口変化指数の推移



(単位:人)

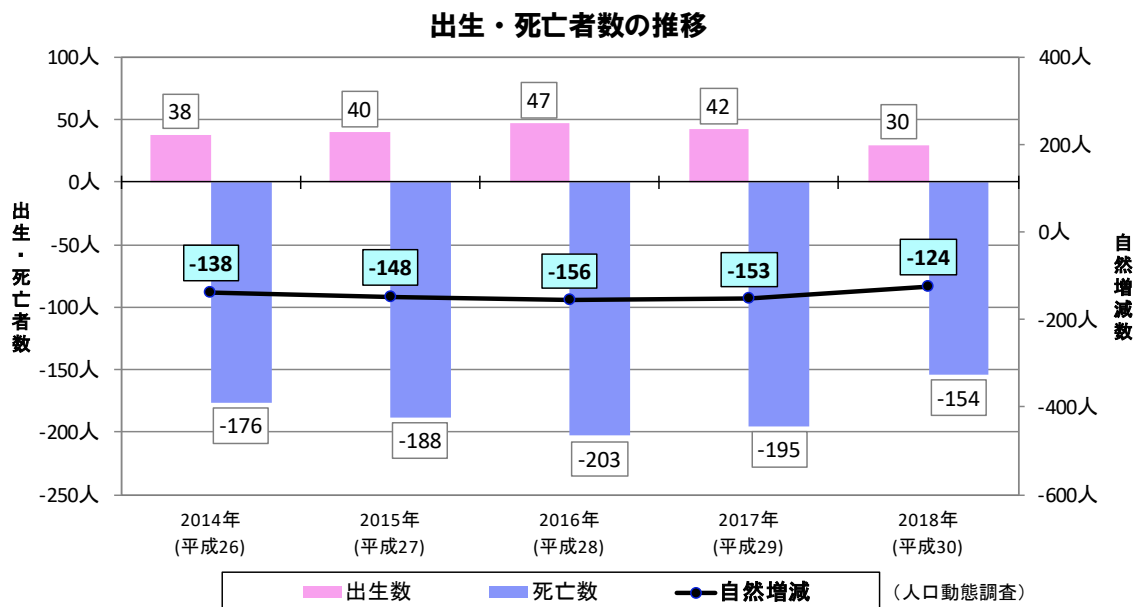
			1985年 (昭和60)	1990年 (平成2)	1995年 (平成7)	2000年 (平成12)	2005年 (平成17)	2010年 (平成22)	2015年 (平成27)
男性	人口	総 数	7,145	6,900	6,499	5,917	5,402	4,983	4,384
		0～14歳	1,413	1,219	1,017	845	671	513	403
		15～64歳	4,846	4,695	4,323	3,739	3,312	3,044	2,500
		65歳以上	886	986	1,159	1,333	1,419	1,426	1,481
	変化指数	総 数	100.0	96.6	91.0	82.8	75.6	69.7	61.4
		0～14歳	100.0	86.3	72.0	59.8	47.5	36.3	28.5
		15～64歳	100.0	96.9	89.2	77.2	68.3	62.8	51.6
		65歳以上	100.0	111.3	130.8	150.5	160.2	160.9	167.2
女性	人口	総 数	8,168	7,851	7,491	6,960	6,519	5,995	5,290
		0～14歳	1,349	1,145	974	803	669	549	383
		15～64歳	5,492	5,212	4,771	4,158	3,676	3,192	2,633
		65歳以上	1,327	1,494	1,746	1,999	2,174	2,254	2,274
	変化指数	総 数	100.0	96.1	91.7	85.2	79.8	73.4	64.8
		0～14歳	100.0	84.9	72.2	59.5	49.6	40.7	28.4
		15～64歳	100.0	94.9	86.9	75.7	66.9	58.1	47.9
		65歳以上	100.0	112.6	131.6	150.6	163.8	169.9	171.4

(国勢調査)

(3) 自然動態・社会動態の状況

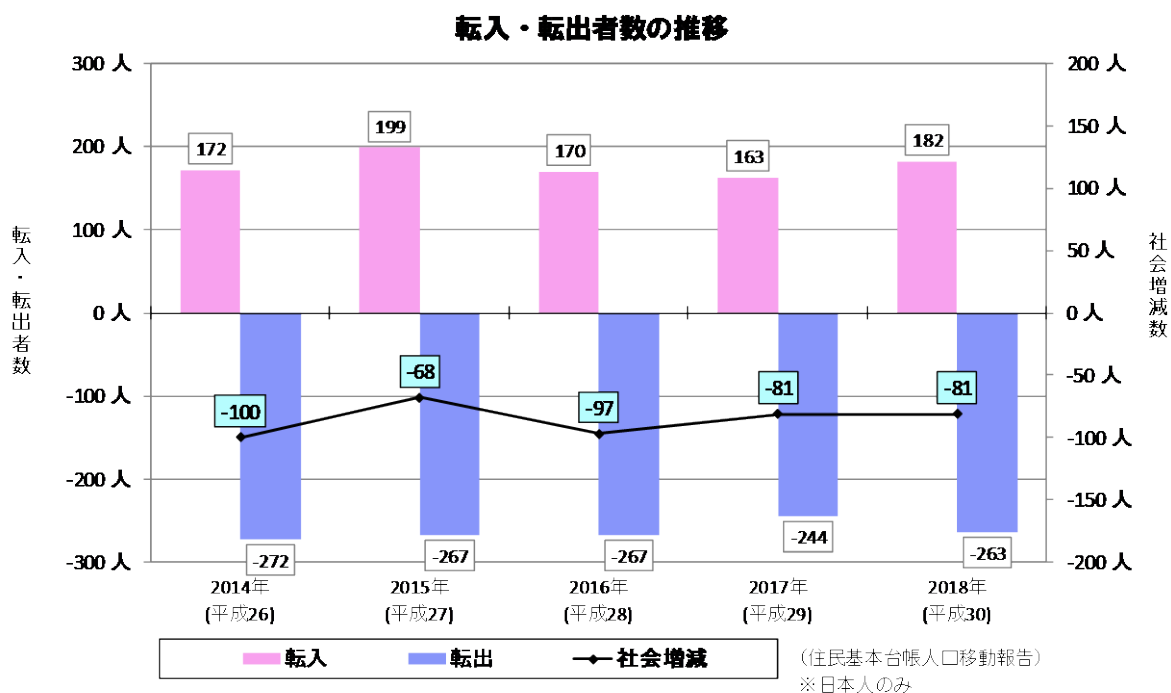
① 自然動態

過去5年間の出生・死亡者数の推移をみると、出生・死亡者数ともに2016（平成28）年まで増加していますが、2017（平成29）年から減少しています。自然増減はマイナス120～160人前後で推移しています。



② 社会動態

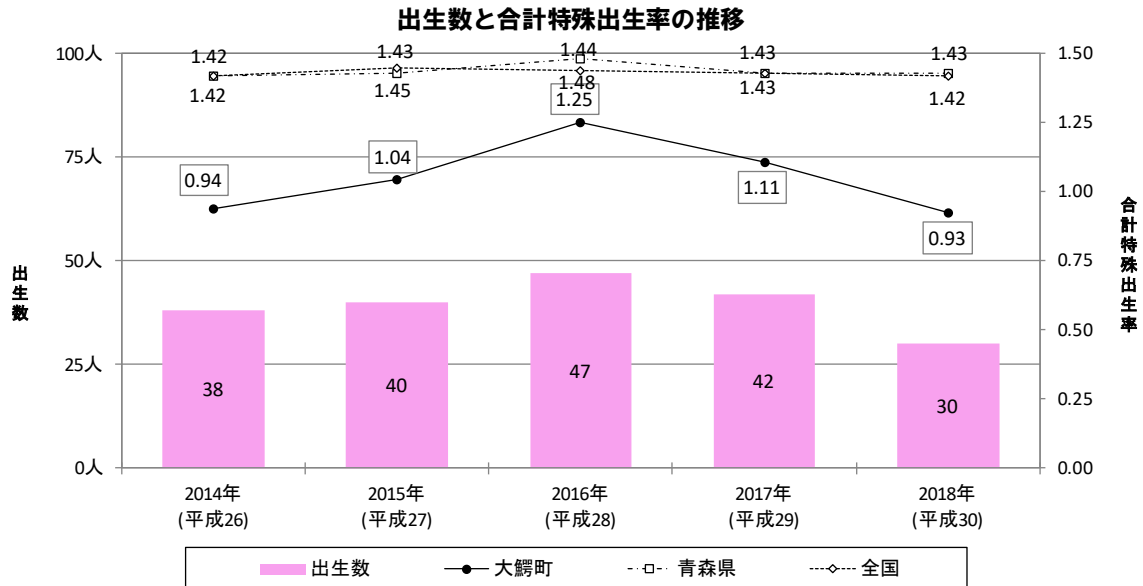
過去5年間の転入・転出者数の推移をみると、多少の増減はあるものの、各年でマイナス70～100人程度の社会減となっています。



(4) 出生・死亡の状況

① 出生の状況

過去5年間の合計特殊出生率の推移をみると、全国・青森県は、ほぼ横ばいで推移しています。大鰐町は全国・青森県を下回ってはいるものの、2014（平成26）年の0.94から2016（平成28）年には1.25まで増加し、その後2017（平成29）年から減少に転じています。

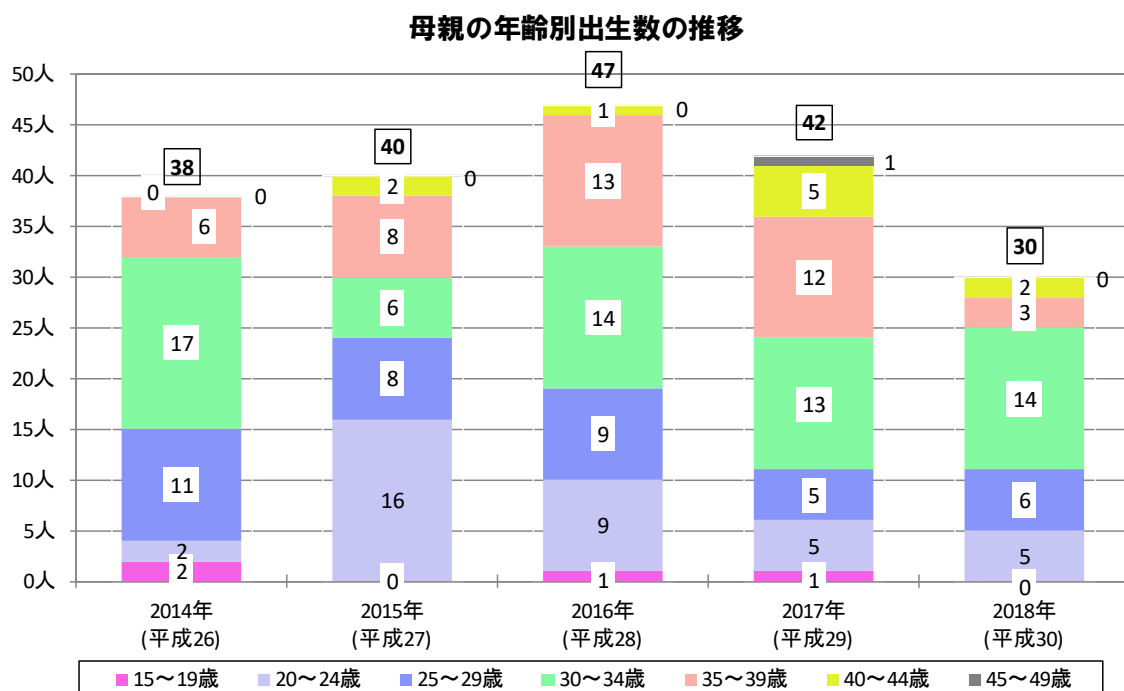


※出生数(人口動態調査)

※合計特殊出生率(全国、青森県は人口動態調査、大鰐町は出生数、女性人口により算出)

※大鰐町の合計特殊出生率は、人口動態統計による母親の年齢5歳階級別出生数を住民基本台帳による15～49歳の5歳階級別の女性人口で除した値の合計

母親の年齢別出生数の推移をみると、2015（平成27）年を除き、30～34歳の出生数が多くなっています。

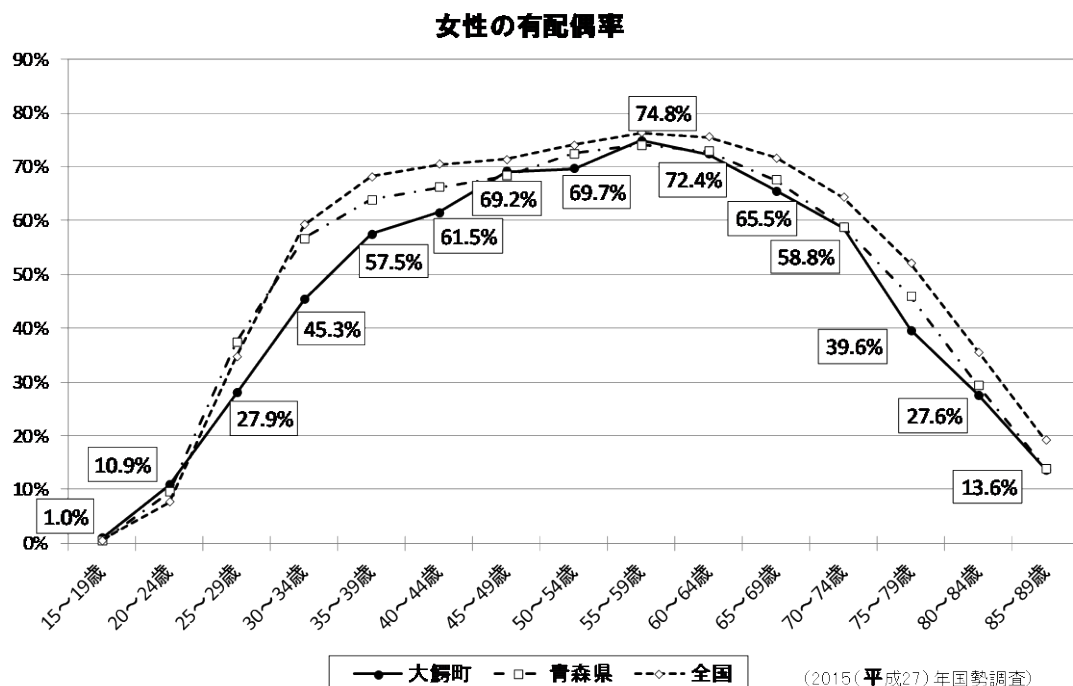


(人口動態調査)

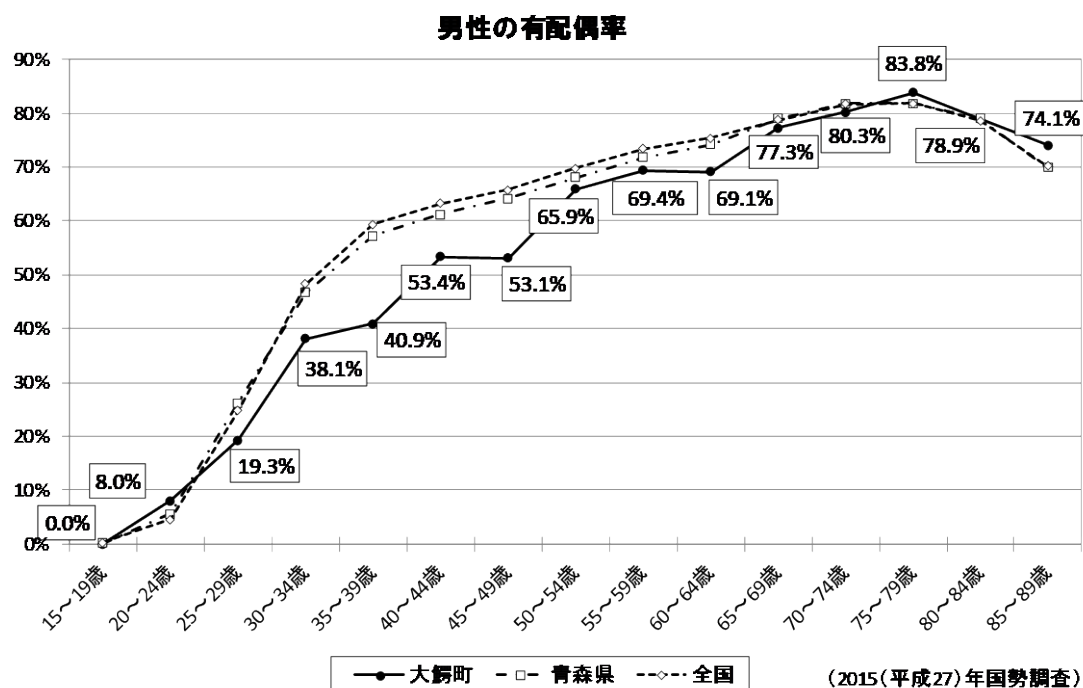
② 有配偶率の状況

我が国では出産の多くが嫡出子であることから、とりわけ 15～49 歳の女性の有配偶率が高いことが出生に強く影響すると考えられます。

2015（平成 27）年の女性の有配偶率を全国・青森県と比較すると、25～44 歳で全国や県と比べ低くなっています。

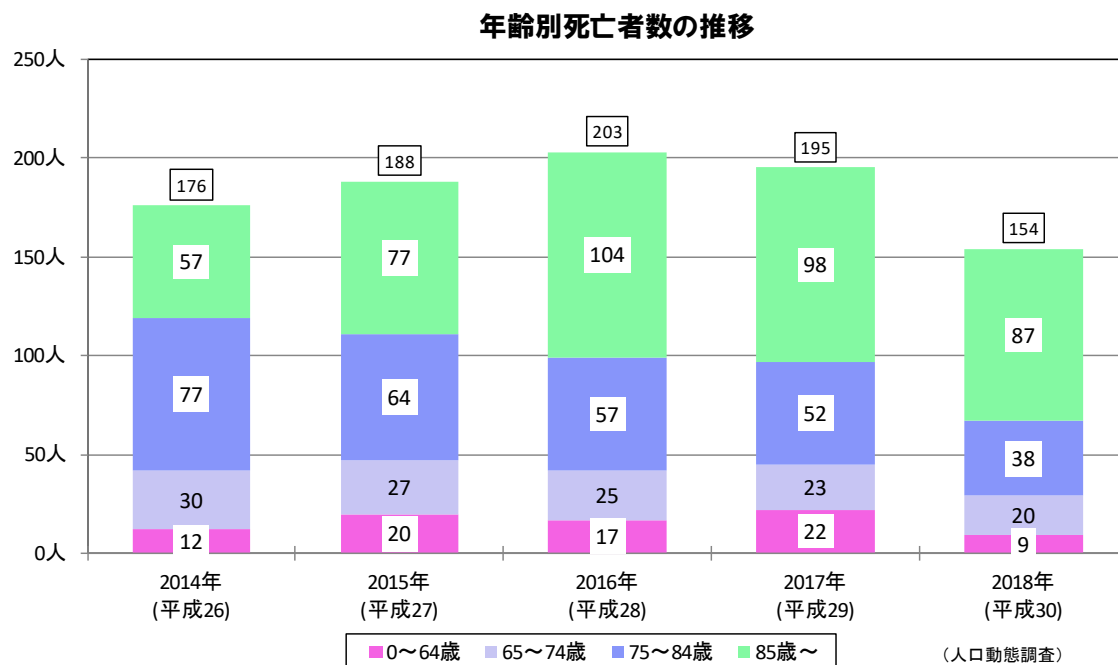


2015（平成 27）年の男性の有配偶率を全国・青森県と比較すると、ほとんどの年齢区分で、全国や県と比べ低くなっています。



③ 死亡の状況

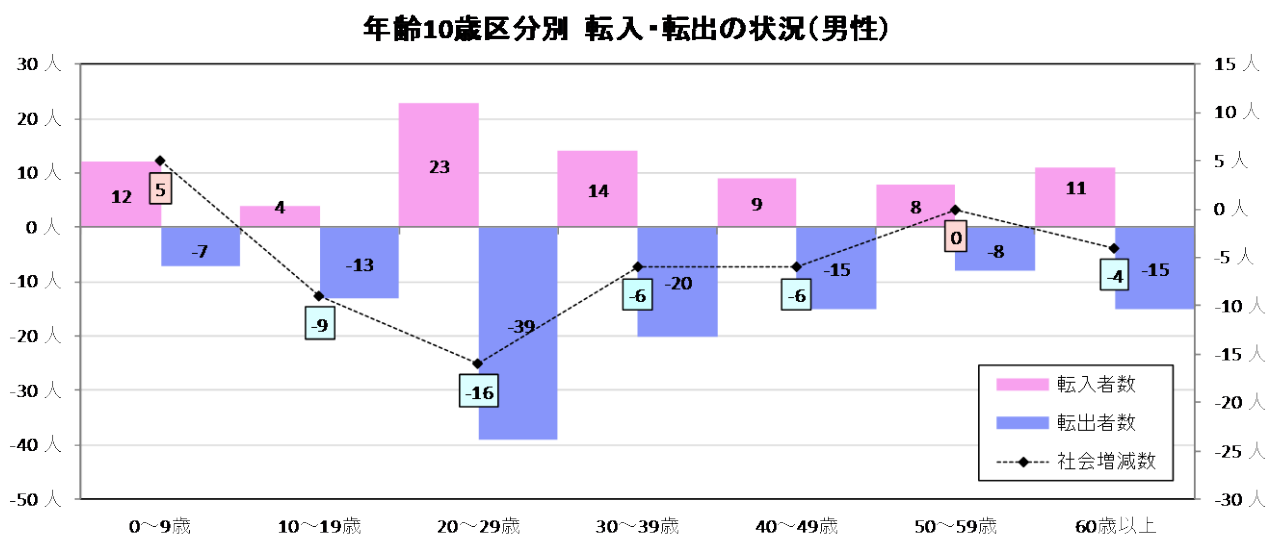
過去5年間の死亡者数の推移をみると、2014（平成26）年の176人から2016（平成28）年の203人まで増加傾向ですが、2017（平成29）年からは減少に転じています。年齢別でみると、2014（平成26）年を除き、“85歳～”が多くなっています。



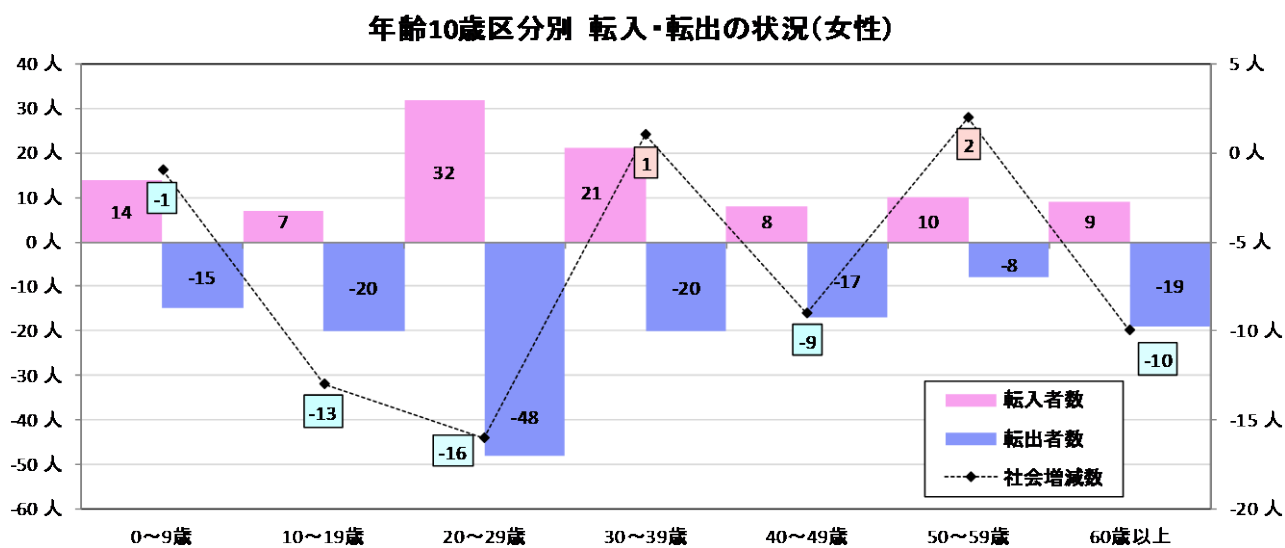
(5) 移動の状況

①性別・年齢別の移動の状況

- 2018（平成30）年の転入・転出の状況について、性別・年齢10歳区分別にみると、男女ともに進学、就職、結婚等の移動を伴うライフイベントが要因と考えられる20～29歳の移動が中心となっています。
- 社会減が最も多いのも、男女ともに“20～29歳”で、いずれもマイナス16人となっています。



（2018（平成30）年住民基本台帳人口移動報告※外国人含む）

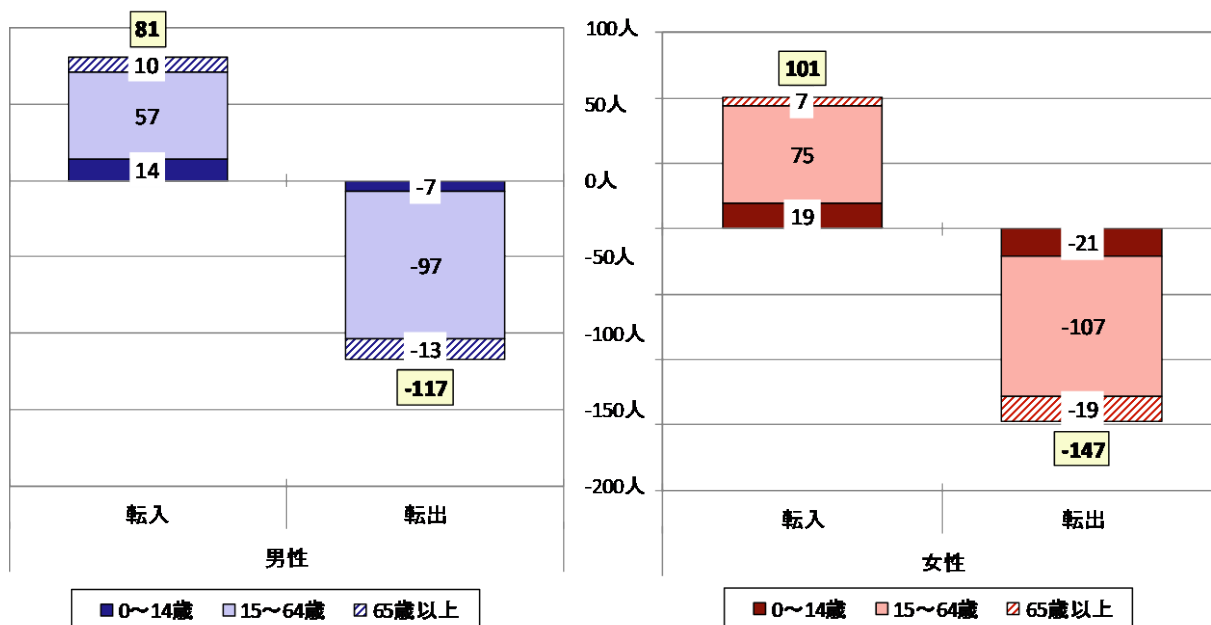


（2018（平成30）年住民基本台帳人口移動報告※外国人含む）

② 転入・転出の状況

2018（平成30）年の転入・転出の状況を性別・年齢3区分別にみると、男性の0～14歳を除き転出が転入を上回っています。

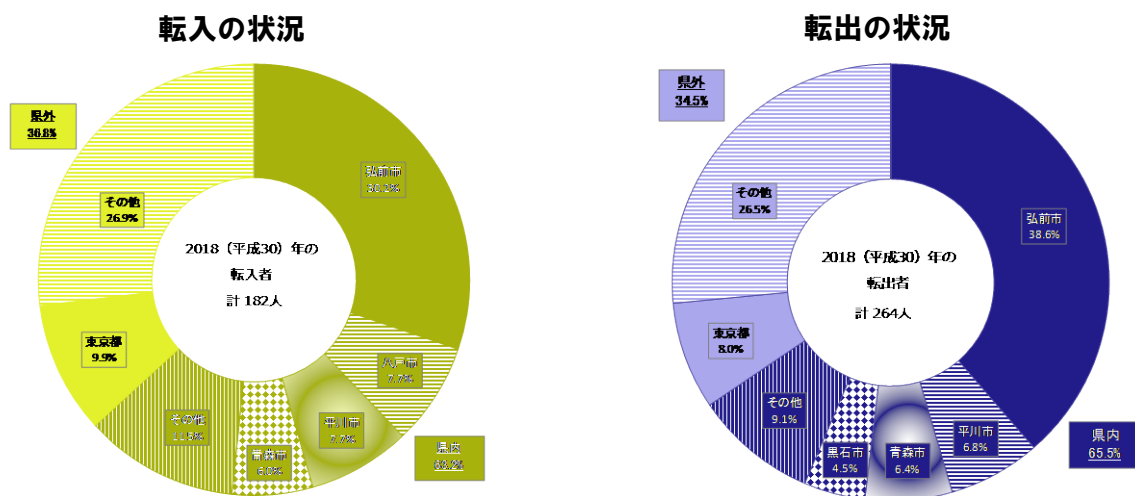
性別・年齢3区分別の転入・転出の状況



（2018（平成30）年人口動態調査）

2018（平成30）年の転入・転出の状況を居住地別にみると、転入・転出ともに県内が約6割で、その中で弘前市が最も多く転入は30.2%、転出は38.6%となっています。

県外では、転入・転出ともに東京都が、最も多くなっています。



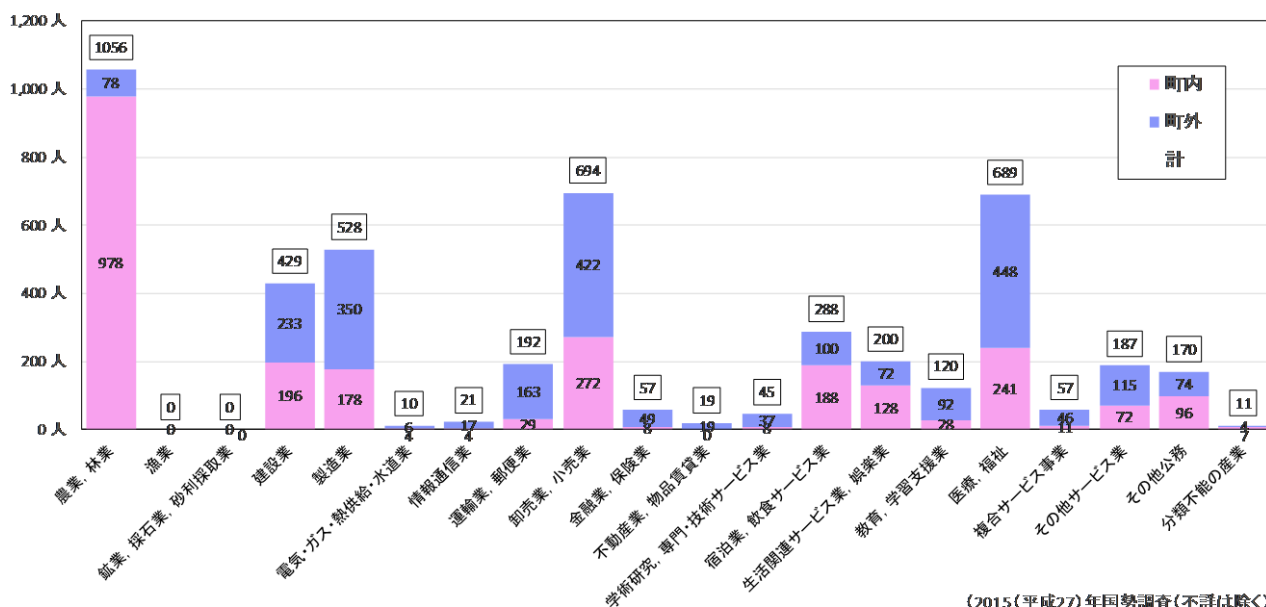
（2018（平成30）年住民基本台帳人口移動報告※外国人含む）

(6) その他の分析

① 産業別就業者数

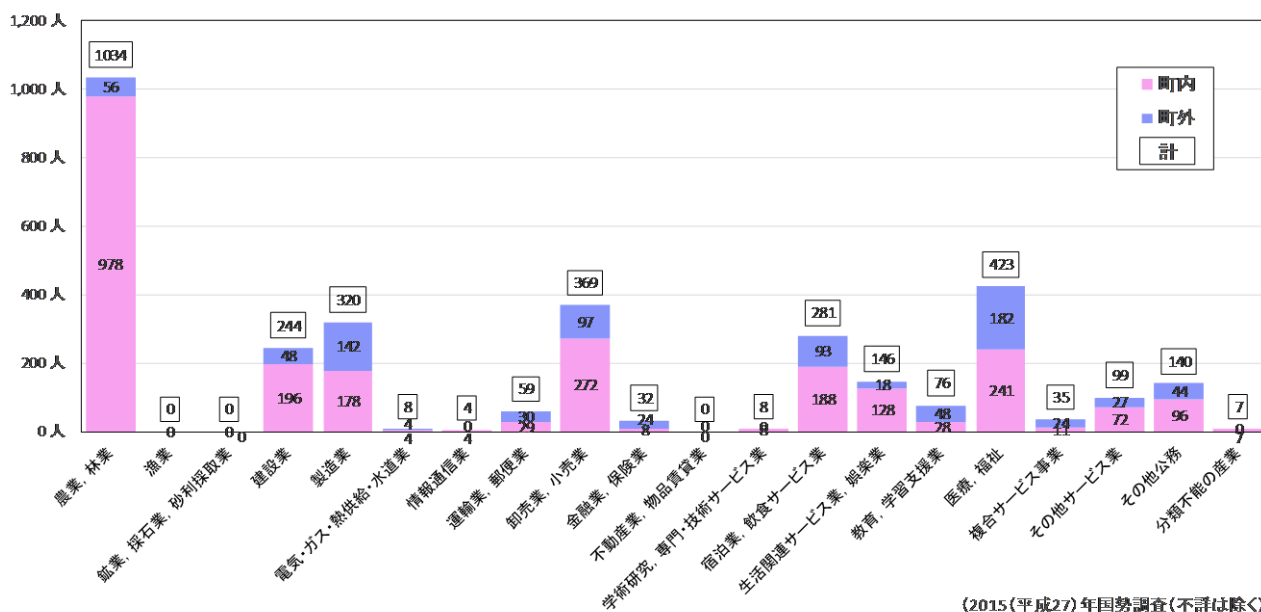
2015(平成27)年の町内常住の就業者について産業分類別にみると、農業、林業が1,056人と最も多く、そのうち978人(92.6%)が町内で就業しています。次いで、卸売業・小売業が694人で、そのうち272人(39.2%)が町内で就業している状況です。

産業大分類別町内常住の就業者



また、2015(平成27)年の町内従業の就業者数について産業分類別にみると、農業、林業が1,034人と最も多く、そのうち他市町村常住者は56人(5.4%)となっています。次いで、医療・福祉が423人で、そのうち他市町村常住者は182人(43.0%)となっています。

産業大分類別町内従業の就業者



2. 大鰐町の将来推計の検証

- 人口の将来展望の検討・設定に向けて、2015年に策定された人口ビジョンにおける戦略人口（総合戦略の取組効果を見込んだ人口）と実態の人口との乖離の有無等の確認が必要です。
- また、2015年に策定された人口ビジョンにおける趨勢人口※は、2013年に公表された国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）推計に準拠しており、戦略人口については社人研の推計の設定をベースに、町の政策に基づいて出生（合計特殊出生率）・移動（純移動率）の設定を調整した推計人口となっています。
- そのため、人口ビジョン策定後の2018年に社人研が公表した将来推計人口の確認が必要です。

※趨勢（すうせい）人口：総合戦略の取組効果を見込まない人口

（１）2020年の戦略人口の達成状況の検証

- 大鰐町の人口ビジョンにおいては2020年の「戦略人口」を9,103人と設定している中で、2019年10月1日現在で人口は8,757人（青森県推計人口）となっています。
- 総合戦略の期間は2019年度末までですが、人口減少の傾向が続く中、既に目標人口を下回っていることから、2020年の戦略人口の達成は困難であると考えられます。

◇大鰐町の人口ビジョンの「戦略人口（2020年10月1日時点）」 ⇒ 9,103人

参考：青森県推計人口月報における大鰐町の人口（2019年10月1日時点） ⇒ 8,757人

青森県推計人口年報値を踏まえた大鰐町の2020年10月1日時点の人口見込み ⇒ 8,435人

【青森県推計人口】大鰐町の人口の推移

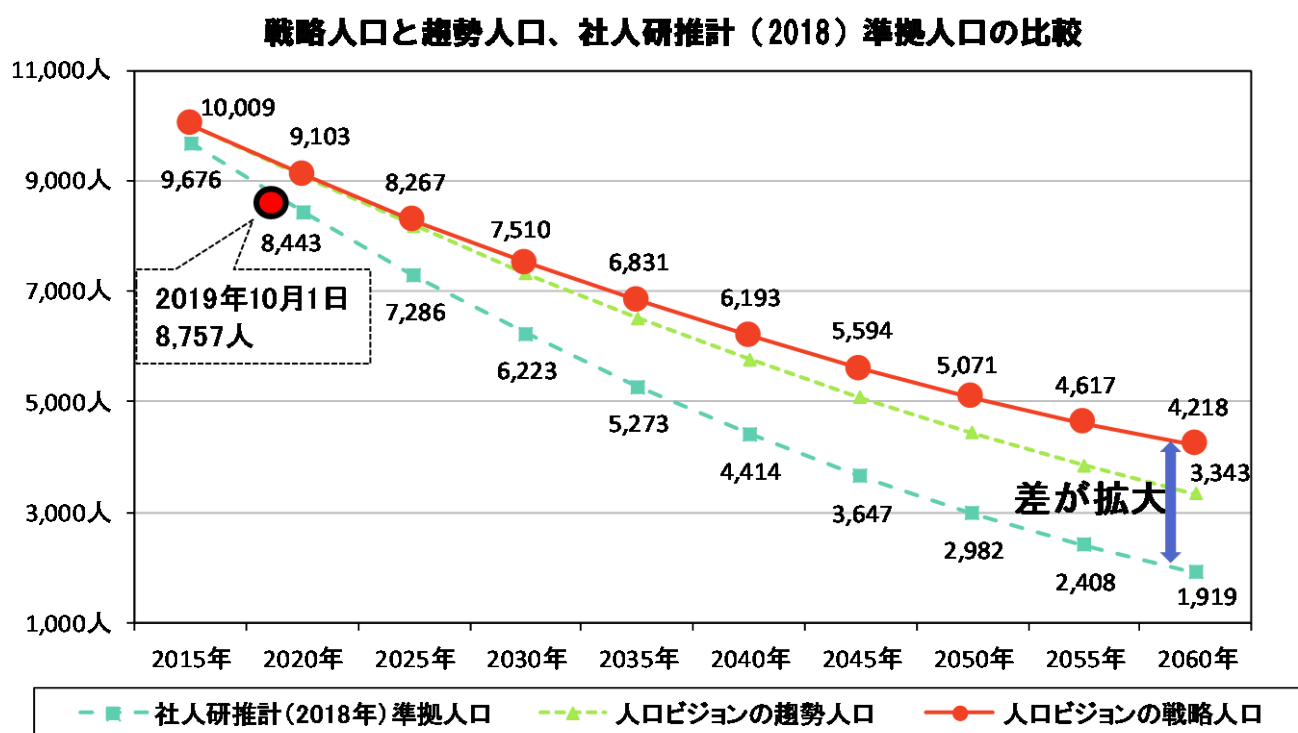
	人 口					変化率				
	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2015⇒2016	2016⇒2017	2017⇒2018	2018⇒2019	2015⇒2019
総人口	9,684	9,435	9,193	8,979	8,757	97.4%	97.4%	95.2%	95.3%	90.4%
男性	4,387	4,264	4,137	4,042	3,933	97.2%	97.0%	94.8%	95.1%	89.7%
女性	5,297	5,171	5,056	4,937	4,824	97.6%	97.8%	95.5%	95.4%	91.1%

※青森県推計人口年報（各年10月1日時点、2015年は国勢調査）

青森県推計人口は、直近の国勢調査の人口を基礎として、「自然増減数(出生者数-死亡者数)+社会増減数(転入者数-転出者数)」を加えることにより推計したもの

(2) 新たな社人研推計を踏まえた戦略人口の検証

- 人口ビジョン策定後に、2015年の国勢調査結果を踏まえた社人研の「日本の地域別将来推計人口（2018年推計）」に準拠した推計によると、大鰐町の将来人口は、2020年には8,443人、2040年には4,414人、2060年には1,919人となることが見込まれています。
- 2015年に策定した人口ビジョンにおける2060年の戦略人口と趨勢人口の差は875人でしたが、2018年の社人研推計と戦略人口との差は2,299人となっており、差が拡大していることがわかります。
- こうした実態を踏まえて、今後の人口の将来展望を検討・設定していくことが必要です。



（単位：人）

（単位：人）	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
人口ビジョンの戦略人口	10,009	9,103	8,267	7,510	6,831	6,193	5,594	5,071	4,617	4,218
人口ビジョンの趨勢人口	10,001	9,088	8,182	7,321	6,519	5,773	5,068	4,432	3,853	3,343
社人研推計（2018）準拠人口	9,676	8,443	7,286	6,223	5,273	4,414	3,647	2,982	2,408	1,919

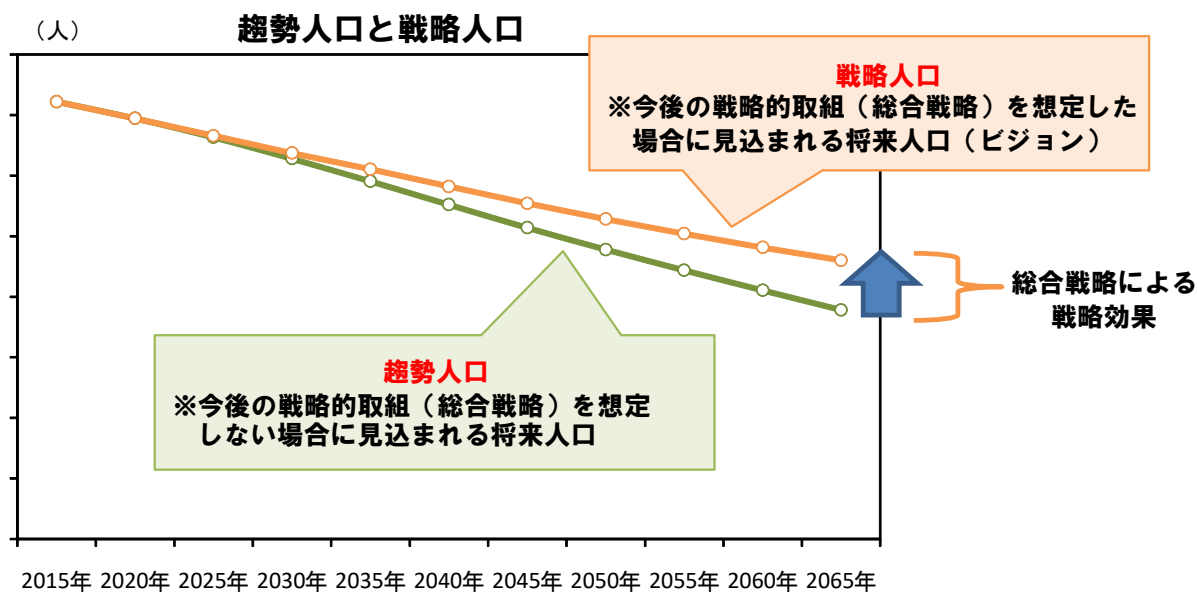
※社人研推計は社人研の「日本の地域別将来推計人口（2013・2018年推計）」の設定に準拠しつつ、推計年を2060年まで延伸
 ※社人研推計（2018）準拠人口の2015年値は国勢調査

Ⅲ. 人口の将来展望

1. 人口の将来展望の検討・設定の考え方

人口ビジョンにおいて設定される将来の目標人口は、総合戦略による戦略的な人口政策の取組を前提とするものであり、そうした意味で戦略人口として捉えることができます。

こうした戦略人口と併せて、戦略的な人口政策の取組を想定しない場合の将来人口（＝趨勢人口）を設定することで、戦略の効果を確認することが可能となります。また、趨勢人口の設定においては、より実態に近い人口を見込むことが重要になります。



〔趨勢人口の設定の考え方 ～より実態に近い推計を採用～〕

趨勢人口は、2015 年の国勢調査結果を踏まえた社人研の「日本の地域別将来推計人口（2018 年推計）」設定に準拠した推計による将来人口を位置づけることとします。

要素	設定の基本的な考え方
出生	国勢調査における 2015 年の全国の子ども女性比と大鰐町の子ども女性比（15～49 歳女性人口に対する 0～4 歳人口の比）が 2020 年以降も一定
移動	原則として、2010～2015 年の国勢調査に基づく純移動率（性・年代別）が 2020 年以降一定と仮定（※転入に関しては地域の人口規模等を考慮）

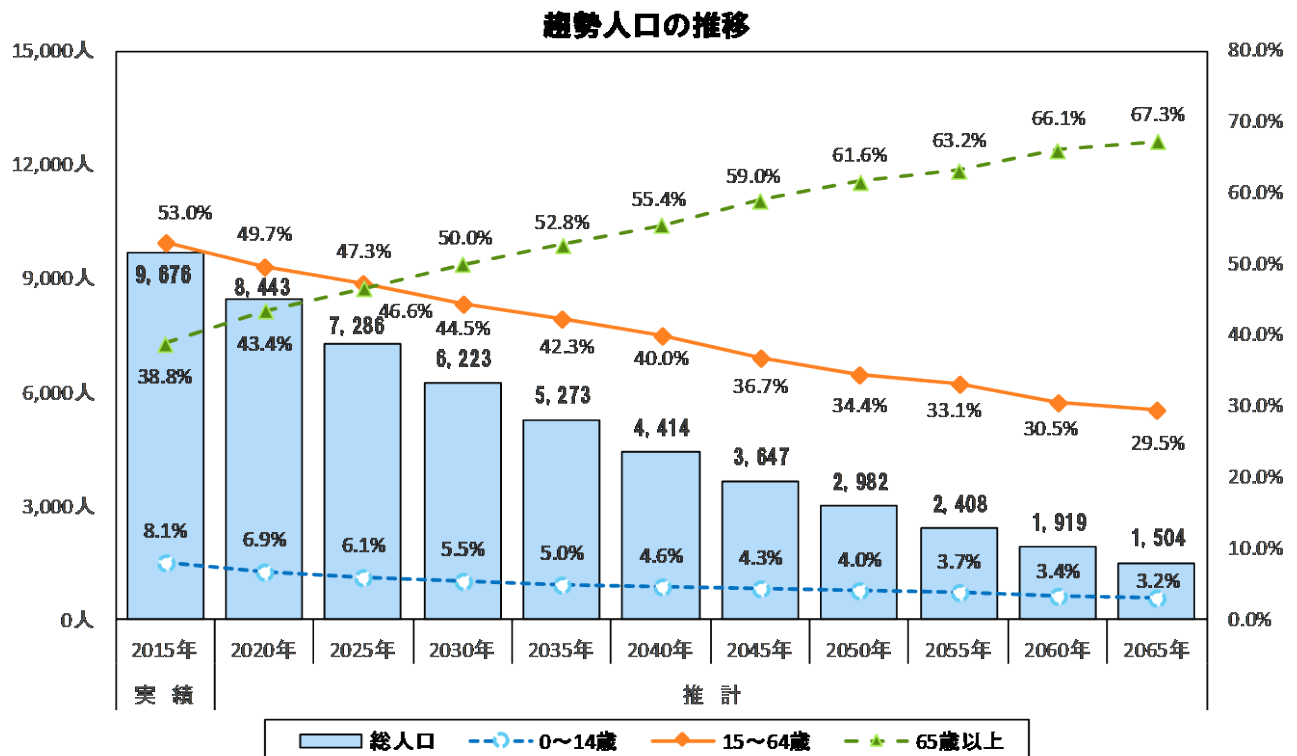
〔戦略人口の設定の考え方 ～ベースの推計を変更しつつ戦略的な人口政策の効果を維持～〕

戦略人口は、趨勢人口（社人研推計（2018）準拠人口）をベースに、出生・移動の設定を 2015 年の人口ビジョンの目標人口と同じ設定とした場合の将来人口を位置づけます。

要素	設定の基本的な考え方
出生	2015 年の人口ビジョンにおける戦略人口の合計特殊出生率の設定を踏襲 2030 年に 1.54、2040 年に 1.77 まで上昇、以降は継続
移動	2015 年の人口ビジョンにおける戦略人口の純移動率の設定を踏襲 2060 年に向けて社会増減が改善（2045 年以降、移動数がプラスに転換）

2. 趨勢人口の推計結果

- 社人研推計（2018）設定準拠による趨勢人口は次のとおりです。
- なお、社人研推計では、性別年齢別推計人口の整数化処理を行っていないため、合計と内訳が一致しない場合がありますが、本推計においては整数化処理を行っています。

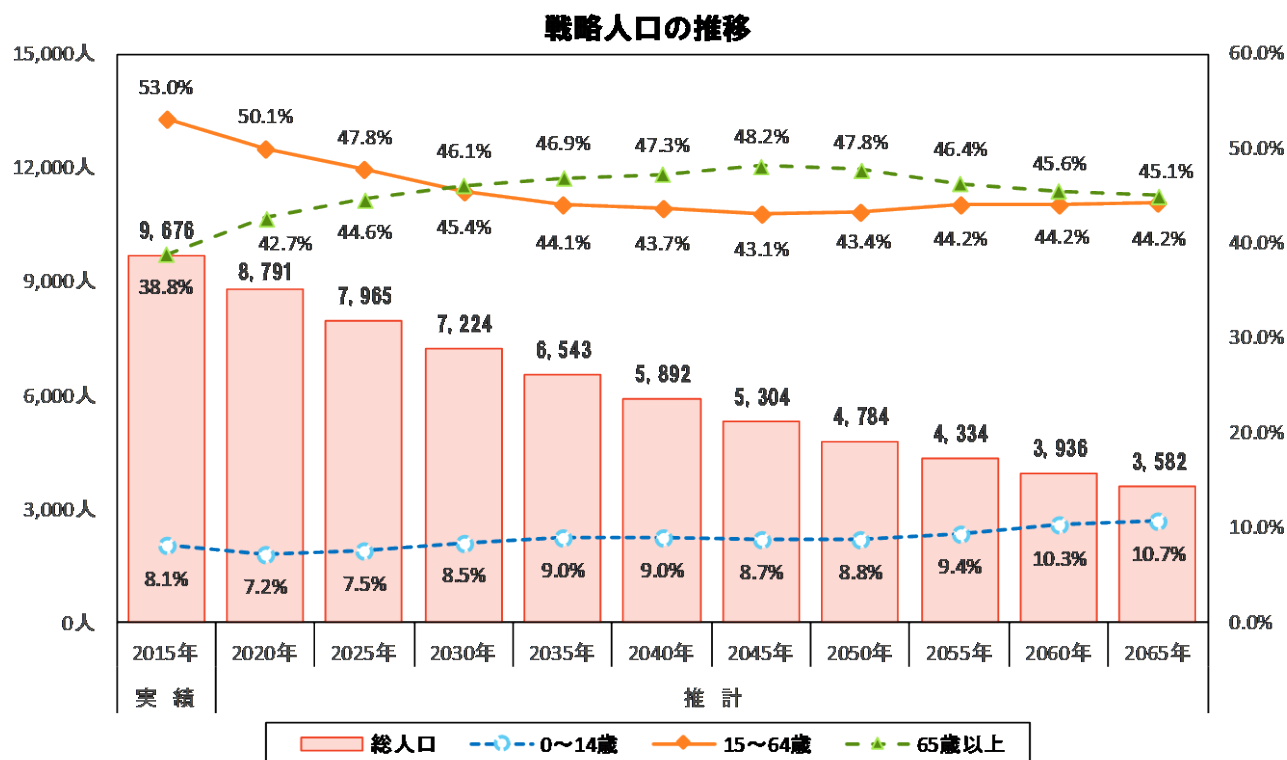


趨勢人口 単位：人	実績	推 計									
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
総人口	9,676	8,443	7,286	6,223	5,273	4,414	3,647	2,982	2,408	1,919	1,504
0～4歳	191	152	117	88	68	54	41	31	22	17	13
5～9歳	244	180	143	110	82	64	50	39	29	20	15
10～14歳	351	247	182	145	112	83	64	50	39	29	20
15～19歳	351	277	194	142	114	88	65	50	39	30	23
20～24歳	309	220	174	122	89	72	56	41	32	25	19
25～29歳	300	275	191	150	106	77	62	48	35	27	21
30～34歳	378	280	257	173	136	96	71	56	44	32	25
35～39歳	477	352	261	239	160	126	88	66	52	40	30
40～44歳	497	457	338	251	230	153	121	84	64	50	38
45～49歳	557	477	440	325	241	221	147	116	81	61	48
50～54歳	657	534	457	423	312	230	212	141	111	78	58
55～59歳	714	638	519	443	412	304	223	206	137	109	76
60～64歳	893	688	616	502	429	400	295	218	201	133	106
65～69歳	971	861	667	599	489	418	391	288	213	196	130
70～74歳	775	876	779	607	546	448	383	358	264	194	178
75～79歳	774	669	759	678	534	481	397	338	316	233	169
80～84歳	656	594	519	594	533	427	386	319	271	253	186
85～89歳	376	430	399	352	413	375	307	277	229	195	181
90歳以上	205	236	274	280	267	297	288	256	229	197	168
構成比											
0～14歳	8.1%	6.9%	6.1%	5.5%	5.0%	4.6%	4.3%	4.0%	3.7%	3.4%	3.2%
15～64歳	53.0%	49.7%	47.3%	44.5%	42.3%	40.0%	36.7%	34.4%	33.1%	30.5%	29.5%
65～74歳	18.0%	20.6%	19.8%	19.4%	19.6%	19.6%	21.2%	21.7%	19.8%	20.3%	20.5%
75歳以上	20.8%	22.8%	26.8%	30.6%	33.1%	35.8%	37.8%	39.9%	43.4%	45.8%	46.8%
高齢化率	38.8%	43.4%	46.6%	50.0%	52.8%	55.4%	59.0%	61.6%	63.2%	66.1%	67.3%

3. 戦略人口の推計結果

○ 趨勢人口をベースに、2015年策定の人口ビジョンにおける戦略人口の出生・移動の設定を反映した、新たな戦略人口は次のとおりです。

○ 人口減少の抑制だけでなく、人口構造（少子・高齢化等）についても改善を見込みます。

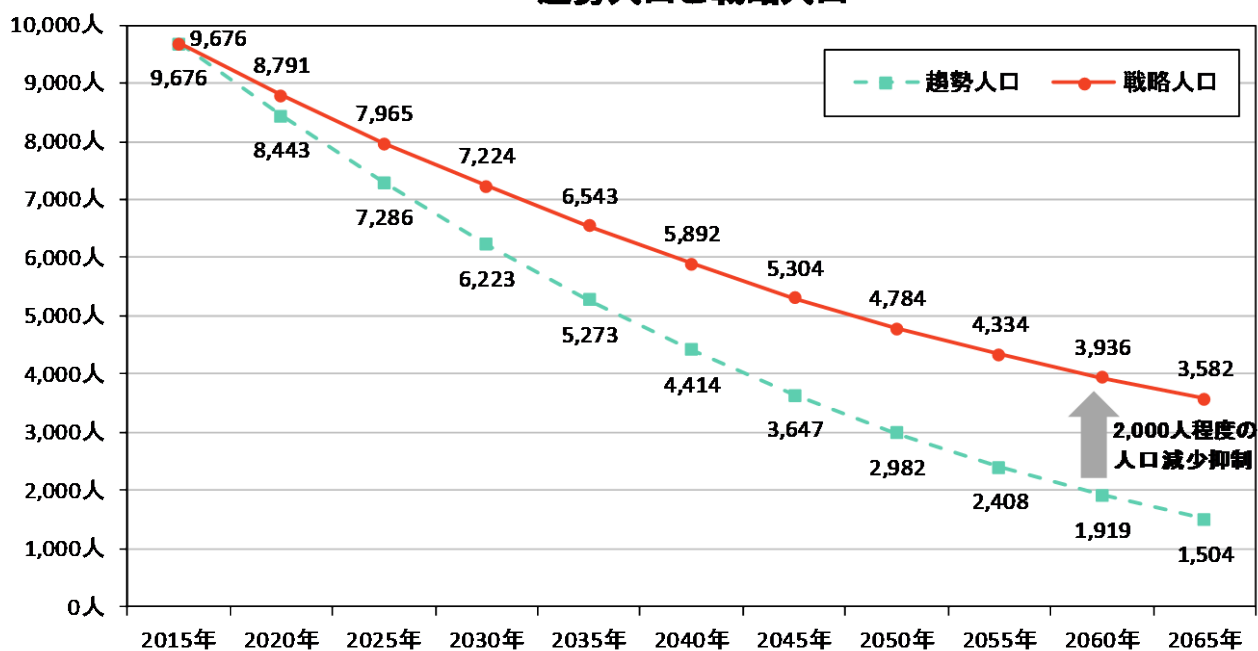


戦略人口 単位：人	実績	推 計									
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
総人口	9,676	8,791	7,965	7,224	6,543	5,892	5,304	4,784	4,334	3,936	3,582
0～4歳	191	201	205	199	175	147	131	133	133	125	113
5～9歳	244	193	203	209	203	180	152	136	138	138	130
10～14歳	351	242	192	203	210	204	181	153	138	141	141
15～19歳	351	326	226	180	190	198	193	172	146	131	134
20～24歳	309	286	268	186	148	157	165	160	143	121	110
25～29歳	300	302	279	264	184	147	156	164	160	143	121
30～34歳	378	296	299	277	263	183	147	157	165	161	144
35～39歳	477	368	289	294	272	260	181	146	156	164	160
40～44歳	497	471	365	288	294	272	262	183	148	158	166
45～49歳	557	479	457	355	281	288	268	259	181	147	157
50～54歳	657	541	467	448	349	277	286	266	259	180	146
55～59歳	714	644	535	465	447	351	280	289	270	263	183
60～64歳	893	690	626	524	458	442	348	279	288	270	263
65～69歳	971	863	674	616	523	461	447	354	284	293	276
70～74歳	775	884	791	625	574	490	434	422	334	267	277
75～79歳	774	678	779	703	563	519	447	396	387	306	244
80～84歳	656	622	553	641	584	478	443	383	339	332	262
85～89歳	376	458	450	409	482	445	373	345	300	264	259
90歳以上	205	247	307	338	343	393	410	387	365	332	296
構成比											
0～14歳	8.1%	7.2%	7.5%	8.5%	9.0%	9.0%	8.7%	8.8%	9.4%	10.3%	10.7%
15～64歳	53.0%	50.1%	47.8%	45.4%	44.1%	43.7%	43.1%	43.4%	44.2%	44.2%	44.2%
65～74歳	18.0%	19.9%	18.4%	17.2%	16.8%	16.1%	16.6%	16.2%	14.3%	14.2%	15.4%
75歳以上	20.8%	22.8%	26.2%	28.9%	30.1%	31.1%	31.5%	31.6%	32.1%	31.4%	29.6%
高齢化率	38.8%	42.7%	44.6%	46.1%	46.9%	47.3%	48.2%	47.8%	46.4%	45.6%	45.1%

4. 戦略人口の達成に向けて

- 出生・移動の改善に、長期的視点から取り組むことにより、2040 年において 1,500 人程度、2060 年において 2,000 人程度の人口減少抑制効果を見込みます。

趨勢人口と戦略人口



単位：人	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
趨勢人口	9,676	8,443	7,286	6,223	5,273	4,414	3,647	2,982	2,408	1,919	1,504
戦略人口	9,676	8,791	7,965	7,224	6,543	5,892	5,304	4,784	4,334	3,936	3,582
戦略効果（戦略人口-趨勢人口）			679	1,001	1,270	1,478	1,657	1,802	1,926	2,017	2,078

- なお、戦略人口における合計特殊出生率及び社会動態については、次のように仮定しています。

[合計特殊出生率]

- ・2040 年までに合計特殊出生率が 1.77 まで上昇、以降は 1.77 を維持。

	西 暦(年)									
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065
合計特殊出生率	1.37	1.46	1.54	1.66	1.77	1.77	1.77	1.77	1.77	1.77
【参考】出生数	201	205	199	175	147	131	133	133	125	113

[社会動態]

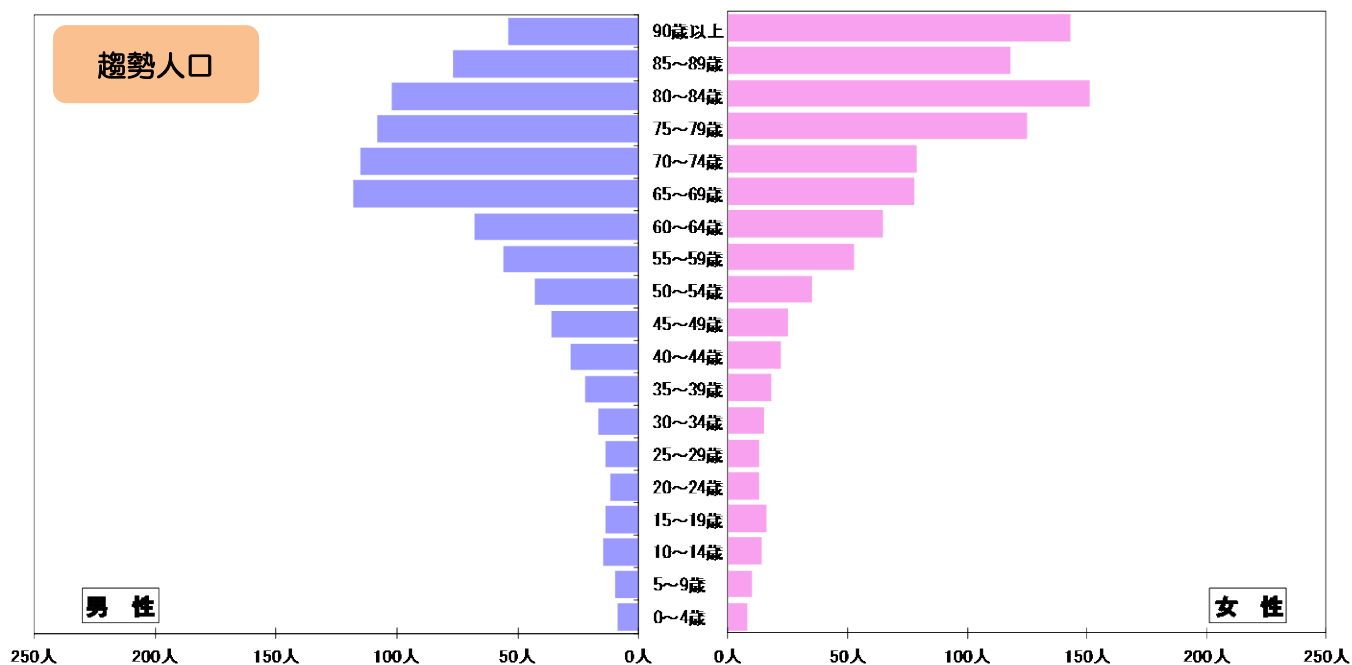
- ・2060 年に向けて社会増減が改善。（2045 年以降、移動数がプラスに転換）

単位：人	西 暦(年)									
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065
社会増減	-185	-131	-76	-37	-9	7	17	29	36	30

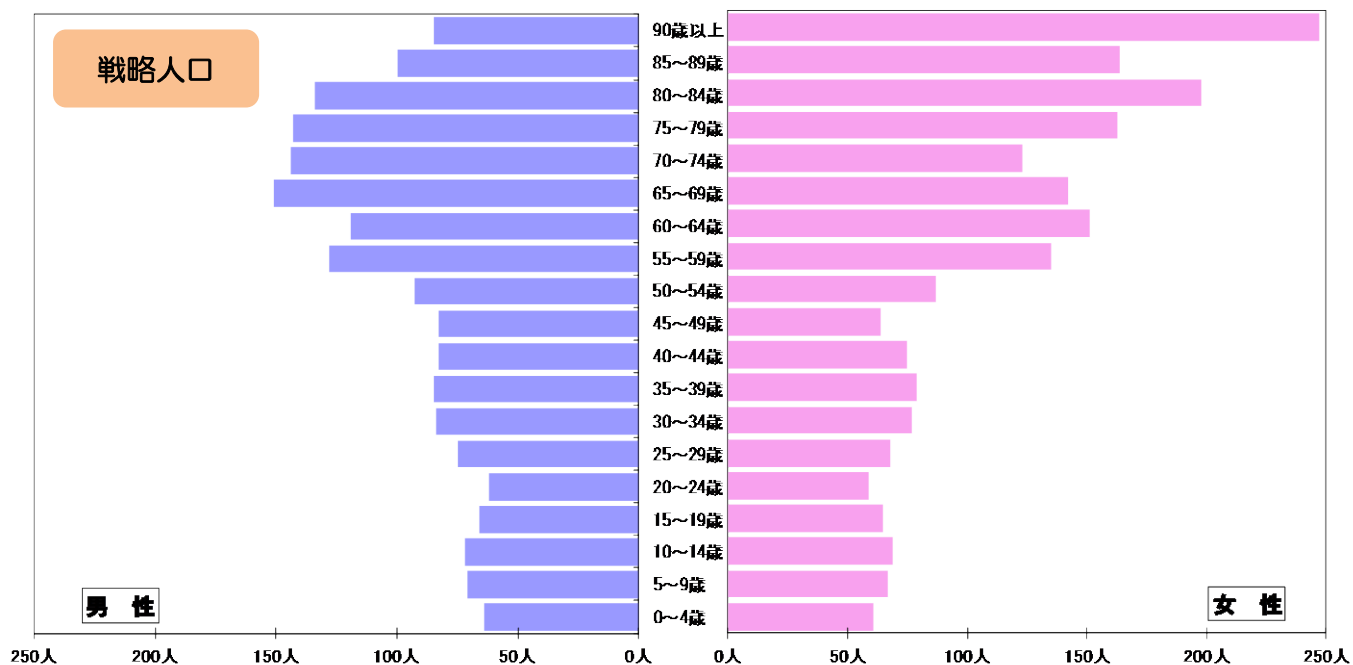
【参考①】 2060 年の戦略人口と趨勢人口の比較

- 出生、移動の改善により、人口規模だけでなく、人口構造についても、年少人口・生産年齢人口を中心に、次のような改善が見込まれます。

大鰐町の戦略人口と趨勢人口の比較（2060）



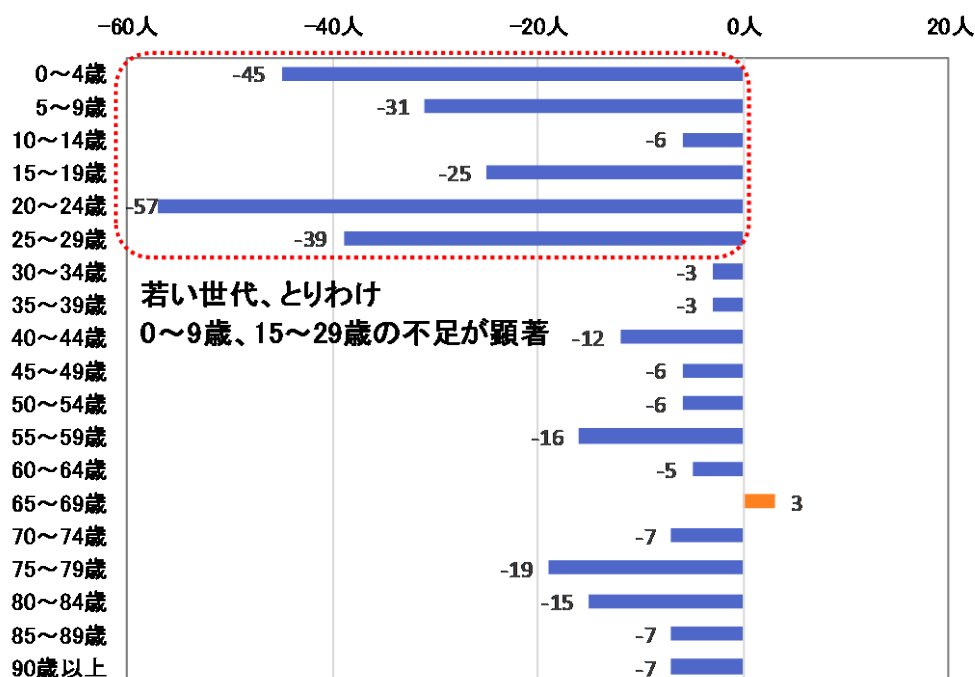
年少人口、生産年齢人口が大きく増加



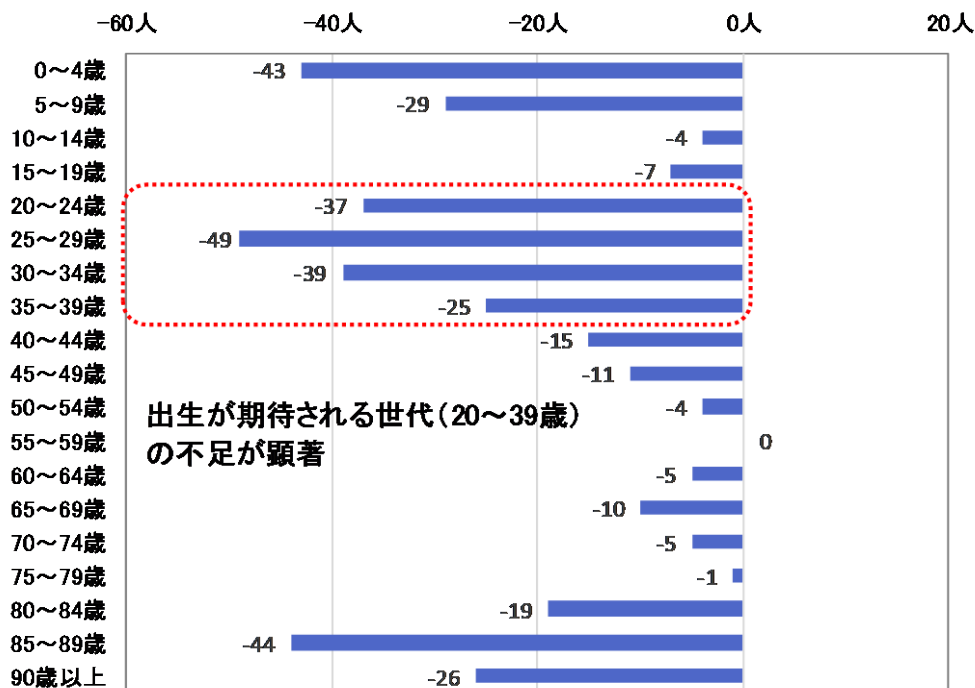
【参考②】 2025 年の戦略人口と趨勢人口の乖離の詳細

- 2060 年の戦略人口の実現に向けて、まずは 2025 年の戦略人口の実現が重要です。
- そのためには、人口減少抑制だけでなく、人口構造の改善も重要であり、今後の総合戦略の取組の検討・設定においては、戦略人口と趨勢人口の性別・年齢別の人口のギャップについても意識した視点が重要です。

【2025年／男性】の戦略人口と趨勢人口の差分



【2025年／女性】の戦略人口と趨勢人口の差分



2025 年の戦略人口と趨勢人口を性別・年齢区分別に比較すると、
⇒ 出生が期待される 20～39 歳の女性人口を含む子育て世代の不足が顕著
※全体としては 男性 306 人、女性 373 人不足

Ⅳ. めざすべき将来の方向

戦略人口を達成するための、今後の基本的な方向を次に提示します。

1. 「子どもは宝 子育て充実の大鰐町」へ

- 人口ビジョン策定時のアンケートからは、子育て家庭が魅力を感じるまちづくり、子育て家庭とその子育て家庭を取り巻く方々を応援するようなまちづくりが必要となっていることが明らかになっています。



“子どもは宝” 皆で育む

子育て充実のまち 大鰐町



2. 「いつまでも住み続けたい大鰐町」へ

- 今後の人口政策としては、出生数の増加並びに転入促進・転出抑制が重要です。
- 人口ビジョン策定時のアンケートからは、自然豊かな大鰐町が好きで住み続けたい方が多くいることが明らかになっています。
- 一方で、若者の定住意向があまり高くないため、若い人たちの定住意向が高くなるよう、町の魅力を高めていくことが必要です。そのために、若い人たちのアイディアを出していただきながら、協働で町を盛り上げていく取組が必要です。
- さらに、高齢者になっても安全に外出できるようにするとともに、元気高齢者を活用し、町全体が元気になるような取組も求められます。



住みよいまち 住み続けたいまち

豊かな自然が生み出す 魅力溢れる大鰐町



大鰐町
人口ビジョン

令和2年3月
発行：大鰐町

〒038-0292
青森県南津軽郡大鰐町大字大鰐字羽黒館5-3
TEL：0172-48-2111
FAX：0172-47-6742
<http://www.town.owani.lg.jp/>



湯の郷・雪の郷・りんごの郷

おおわに